



範囲を拡大する

事業展開で「できる」の

時代に合わせた柔軟な

leader's interview

01

経営者インタビュー
リーダーの目線

広葉樹合板株式会社
代表取締役 **山口 裕也**

profile: 新東亜交易(株)に勤務後、1993年広葉樹合板(株)に入社。2003年取締役就任。その後、常務・専務取締役を経て、2010年代表取締役社長に就任。現在に至る。持ち株会社である広葉樹ホールディングス(株)、太陽光発電会社の(株)フルスティーム代表も兼務。

合板を核に、加工・製造分野に事業領域を拡大

当社は合板卸売業として始まり、合板加工、製品製造と合板を基軸に事業領域を拡大してきました。商社としてさまざまな種類の合板を取扱い、300社を超える多種多様なお客様とお付き合いを深めて来ました。商社として合板を流通させるだ

けでなく、カット加工や貼り加工など当社の技術を活かした加工、製造分野にも進出。システム階段ユニット「ラフステップ」、店舗演出ステージ「プロデュースワゴン」、全国のスーパーで採用されている「店舗什器」など合板がもつ可能性を最大限に活かした事業を展開しています。多岐に渡る事業展開を支えているのは商社として長年培った知識と仕入

れ先との関係性。合板を使った商品開発ではさまざまな合板の特性を活かした提案力が大きな武器になっています。近年、「ウッドショック」と総称される世界的な木材不足が大きな問題になっています。当社には長年に渡る信頼に裏付けされた独自の仕入れルートがあり木材を確保。合板を必要としているお客様に安定供給しています。

DXを契機に新たな事業へチャレンジ

当社では事務処理から製造現場までDX化を進めています。今年度はドイツのHOMAG(ホマック)社製ソフトウェアIXを中心としたシステムを導入。図面の読み込み・部材拾い・見積計算・指示書を一括で作成、工作機械で作業し、発送用の段ボールカットまでをシステム化。製造現場のDX化により、1人のオペレーターのできる範囲が広がり、品質の均質化が実現できます。製造現場のDX化は新しいビジネス展開も生み出します。たとえば、学習機のサブスクリプションサービス。当社の合板加工技術で作った良質な学習機をサブスクリプションで必要な

時だけ使い、使用後は当社がリペアすることで再利用ができます。補修できない程損傷しても芯材として再利用が可能。当社の技術を使うことで学習機のリサイクルが可能になるのです。リモートワーク用のワークブース事業にも着手しています。駅などに設置され、リモートワークが進む中で利用拡大が見込まれています。インターネットを使い、廃材や在庫を流通させるB to Bプラットフォーム事業も進めています。こうした新しいビジネスも当社が合板を基軸としたビジネスを展開しているからこそ。再利用可能なエコ商材としての特性を持ち、さまざまな加工ができる合板。時代と共に求められるものが変わっても合板のニーズが消えることはありません。当社の基本

である商品知識と加工技術があれば新しい価値を提供していけるでしょう。

「できること」を真摯に取り組んで行こう

さまざまな事業を支えるために社内コミュニケーションは重要です。当社では各事業所を大きなディスプレイにオンラインで常に映し、コミュニケーションを活性化しています。日常的に画面を通じて気軽なコミュニケーションができれば大切な打ち合わせがスムーズになります。最新技術を使い、難しいことを行っているわけではありません。目の前の「できること」に真摯に取り組む当社の基本姿勢はビジネスだけでなく社内環境づくりに生きています。



独自商品のシステム階段ユニット「ラフステップ」、店舗演出ステージ「プロデュースワゴン」、店舗什器。



HOMAG(ホマック)社製のIXを活用した自動工作機。



50周年の記念として行われたハワイへの社員旅行にて。



Company Information

広葉樹合板株式会社

TSR 認定優良企業 旭川市 TSR 企業コード: 未着

所在地 〒071-8112
旭川市東鷹栖東2条2丁目137番地372
TEL 0166-57-1717
URL https://www.koyouju.co.jp/

設立 1971年1月
売上高 未着
従業員数 未着

採用情報は P00 へ→



企業ホームページは2次元バーコードからご覧いただけます。